

〔学会記録〕

東日本学園大学歯学会第6回学術大会

(昭和62年度総会)

— 講演抄録 —

(昭和63年2月27日, 薬学部大講堂)

教 育 講 演

松田浩一 (保存II)

現在, 本学においては, 模型実習が4年次から5年次にわたって行われています。その目的は, 講義において学んだ知識を模型を用いて具現実施し, 理解を深め, かつその科学的根拠による診療技術の基本を習得するために行うもので, 病院において患者に接して行う臨床実習の前段階をなす重要な課程である。しかしながら, 現在採用されているマネキン・システムは非常に単純であるため, 臨床実習としては不十分である。又種々の事情により従来通りの臨床実習を行うことが困難な状況を迎え

つつあり, 臨床実習教育の在り方に関して再考が必要であると考えられる。

本学では昨年秋より臨床実習において患者診療の前段階として, 臨床見学, 補助に加えて, より生体に近似した人工歯, 頬, 顎粘膜及び下顎運動を有する東日本学園大学型ユニット据付け型胴体マネキンを開発し, Pre-clinical Training System (PCT-system) と名付けて応用し, 教育効果の向上を図っていますので, 各科の現況を報告します。

1. シミュレーション教育について

荆木裕司 (保存II)

保存修復学においては口腔診査, う蝕の探知, 窩洞形成, 修復といった一連の治療手技にシミュレーターを用いて, 実習を行っている。これまでの模型実習ではエポキシ樹脂製の人工歯もしくは抜去天然歯を用いて実習を行っていたがいずれも問題点が多く今回シミュレーター実習用に特に新しい人工歯を開発した。歯質に近い光透過性をもたせるため, またエアタービンによる切削を可能とするため, 歯冠部のエナメル質部分をコンポジット

レジンで, また象牙質部分は電気エンジンによる形成を行えるようエポキシ樹脂を用いた2層構造の人工歯である。さらにう蝕を想定した欠損を設けその部分に着色した軟質の樹脂を封入しているため探針による触知, 透過光による診査等についてもより生体に近い診査実習が行えると考えられる。現在シミュレーターシステムに $\frac{1}{1}$ $\frac{6}{6}$ の4本を用いて診査, 形成, 修復の各実習を行っているが, 使用している学生の反応も概ね好評である。